

2) 地盤の状況

調査区域における地盤沈下量の観測地点を前掲の図 4-1-7 に、観測結果を表 4-1-14 に示します。

大阪市観測及び大阪府観測の過去 10 年間の地盤沈下量については、大きな隆起や沈降が見られず、概ね安定した状態にあります。

表 4-1-14 地盤沈下量の経年変化

大阪市観測

単位：mm

番号	所在地	平成 15年	平成 17年	平成 19年	平成 21年	平成 24年
1	大阪市北区中之島 1-1 (中之島公園観測所脇)	-1.5	-12.9	-5.5	-1.7	-1.7
2	大阪市北区長柄西 2-7 (長柄公園北東隅)	+0.5	-12.3	+2.8	-2.8	0.0
3	大阪市都島区東野田町 4-15-14 (東高等学校内)	-1.3	-8.7	+0.8	-2.3	-0.2
4	大阪市都島区都島本通 3-10-3 (都島小学校内)	-2.0	-5.3	+1.5	-1.5	-0.7
5	大阪市福島区大開 2-17-62 (西野田工業高等学校内)	-1.0	-9.5	+1.7	-1.5	+1.2
6	大阪市福島区海老江 8-1-10 (海老江西小学校内)	-2.5	-9.0	+0.5	-1.9	-1.3
7	大阪市中央区大阪城 3 (水道局大手前配水ポンプ場脇)	+2.2	-0.1	-1.0	+2.6	-2.2
8	大阪市中央区大手前 4-1 (大阪管区气象台敷地内)	+0.1	-0.5	+1.6	-2.1	-0.5
9	大阪市西区江戸堀 1-21-28 (西船場小学校内)	-0.9	-9.0	-1.6	-1.9	+2.4
10	大阪市淀川区十八条 2-4-3 (円宗寺内)	-0.1	-4.5	+2.7	-2.2	+3.5
11	大阪市淀川区三津屋中 1-4-14 (三津屋小学校内)	+1.2	-5.9	-1.1	-0.8	+2.0
12	大阪市東淀川区西淡路 3-14-11 (西淡路小学校内)	-3.5	-4.5	+2.0	-4.0	-0.8
13	大阪市旭区清水 5-1-12 (清水小学校内)	-0.8	-5.1	+7.6	+0.5	+2.3
14	大阪市旭区新森 6-3-13 (新森小路小学校内)	+0.9	-3.6	+7.7	+0.5	+3.5
15	大阪市城東区永田 4-4 (蓮乗寺内)	+1.4	-3.6	+8.0	+3.2	+4.5
16	大阪市城東区中央 3-8 (蒲生公園内蒲生観測所脇)	+6.3	+5.1	+12.0	+8.8	+24.4
17	大阪市鶴見区鶴見 3-11-30 (願正寺内)	+0.5	-5.8	+8.2	-0.4	+3.0
18	大阪市鶴見区横堤 5-13-61 (茨田西小学校内)	-4.6	-5.1	+9.4	-1.4	+0.8

注1) 観測時期は平成15～19年は10月～翌3月、平成21年は11月～翌年3月、平成24年は翌年1月～3月。

注2) 観測原点は基21号(国土地理院基準水準点)大阪府茨木市、標高はTP+64.1235(昭和28年成果の平均計算値)です。

注3) 数値は各水準点の前年の基21号に対する高さからの沈下を「-」で表し、隆起を「+」で表しています。

出典：大阪市統計書 地盤沈下量(平成26年5月、大阪市ホームページ)

大阪府観測

単位：mm

番号	観測所名	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年
19	豊中	(+0.37)	-1.05	-0.30	+0.15	-0.19	+0.26	+0.10	-0.16	+0.08	-0.06
20	南郷	-1.66	(-2.10)	-1.83	-1.56	-1.05	-0.99	-1.06	-1.61	-0.15	-1.21

注1) 数値は各水準点の前年の基21号に対する高さからの沈下を「-」で表し、隆起を「+」で表しています。

注2) () 内の数値は欠測を含むデータを示します。

出典：平成25年地盤沈下地下水観測年報(大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課)

3) その他の状況（地下水の状況）

調査区域における地下水位の測定地点は図 4-1-8 に、水位の状況は表 4-1-15 に示すとおりです。

表 4-1-15 井戸の水位状況

大阪市観測

単位：m

観測井	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年
1 十三	5.38	5.6	6.01	6.27	6.43	6.19	5.95	5.67	5.47	5.47
2 中之島A	4.86	5.22	5.77	6.01	6.08	5.79	5.44	5.11	4.96	4.99
	中之島B	6.03	6.23	6.53	7.11	7.39	7.08	6.73	6.55	6.26
3 蒲生	7.75	7.73	7.72	7.74	7.61	7.55	7.19	6.84	6.39	6.22
4 柴島	6.89	6.84	6.88	7.03	7.11	7.12	6.98	6.62	6.42	6.31
5 馬場町(Ⅱ)	31.37	31.07	30.93	31.13	31.39	31.42	31.14	30.84	30.41	30.17

注) 地下水位（年平均値）は、観測井戸の管頭から地下水面までの距離で、観測する帯水層の水圧変動を水位変動として間接的に観測しています。

出典：地下水位観測井の概要及び地下水位観測結果（平成15年～平成24年）（大阪市ホームページ）

大阪府観測

単位：m

観測井	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	
6 豊中	5.05	5.5	5.68	5.70	5.46	5.16	4.82	4.64	4.61	4.52	
7 庭窪 1-1	9.50	9.1	8.82	8.57	8.33	7.97	7.63	7.32	7.06	6.94	
	庭窪 1-2	9.86	9.47	9.14	8.82	8.55	8.15	7.78	7.46	7.23	7.11
	庭窪 1-3	11.74	11.68	11.82	11.58	11.20	10.82	10.51	9.94	9.61	9.38
8 南郷	10.88	10.66	10.27	9.98	9.52	8.64	8.39	8.22	8.02	8.07	
9 鴻池 1	12.65	12.57	12.36	12.08	11.85	11.8	10.88	10.69	10.69	10.79	
	鴻池 2	9.11	8.76	8.49	8.22	7.98	7.59	7.16	6.85	6.68	6.55

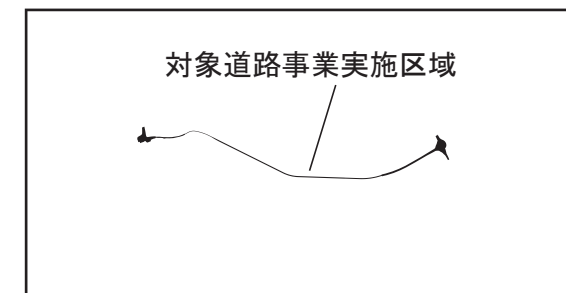
注) 地下水位（年平均値）は、観測井戸の管頭から地下水面までの距離で、観測する帯水層の水圧変動を水位変動として間接的に観測しています。

出典：平成25年 地盤沈下地下水位 観測年報（大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課）



凡 例		
記号	番号	名称
●	1~9	地下水水位観測地点

出典：大阪市資料
 平成25年地盤沈下地下水水位観測年報
 (大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課)



図名

図4-1-8 地下水水位観測地点位置図

1.4 地形及び地質の状況

1) 地形の区分及び分布状況

調査区域の地形の概況は、表 4-1-16 及び図 4-1-9 に示すとおりです。

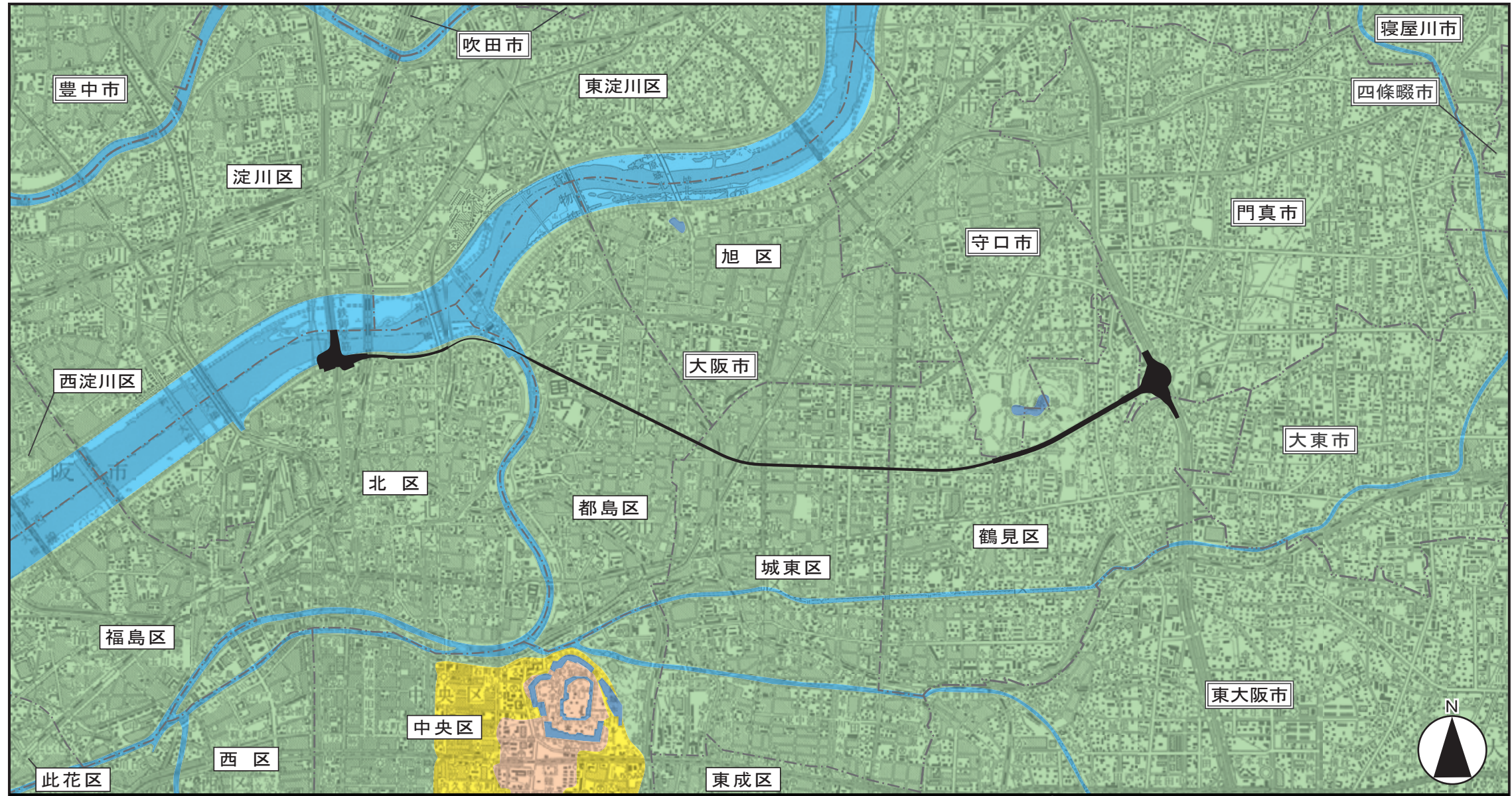
調査区域の大部分は、淀川水系により形成された三角州であり、大阪城の周辺に分布する丘陵地と砂礫台地からなる上町台地により、西大阪平野と東大阪平野に分けられます。





大阪市東部を南北に走る上町台地は、標高 10～20m、幅 1～2 km、長さ約 11 km で、大和川を越えて信太山台地に続き、大阪城はその北端にあたります。大阪湾に面した西大阪平野は、淀川三角州からなり、その上に江戸時代中期からの新田開発や埋立による市街地造成が行われてきました。都島区毛馬から下流の淀川は明治時代末に開削されたもので、大阪市の中心部を流れる大川、土佐堀川、堂島川などはその旧流路で、河口近くで、安治川、木津川などが分流しています。上町台地と生駒山地に挟まれた東西 10 km、南北 20 km の東大阪平野は、淀川の後背湿地で、南から旧大和川扇状地や三角州の進出により埋め立てられたものです。

表 4-1-16 地形及び地域区分一覧表

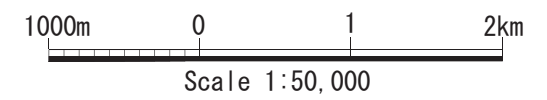
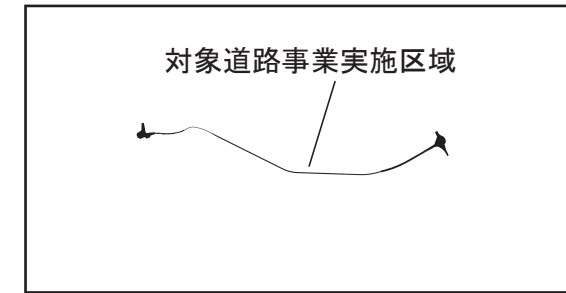
地形の区分	主な地域区分
台地	上町台地
低地	西大阪平野 東大阪平野

出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）



凡 例	
記号	名 称
	丘陵地Ⅱ
	砂礫台地
	三角州
	河川等

出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）



図名

図4-1-9 地形の状況図(地形分類図)

2) 地質の区分及び分布状況

調査区域の表層地質の概況は、表 4-1-17、図 4-1-10 及び図 4-1-11 に示すとおりです。

調査区域の大部分は沖積層の砂と泥（未固結堆積物）からなります。沖積層は、縄文海進で堆積したもので、東大阪平野や淀川低地北部にまで達しています。

大阪城の周辺には、段丘層に相当する礫が分布しています。段丘層は高度により低・中・高に区分されていますが、大阪城の周辺には、低位段丘と中位段丘が分布しています。低位段丘に相当する礫層は、天満層と呼ばれ、厚さは 15～20m で上部は砂礫で下部は海成粘土です。この砂礫層は、N 値が 50 を超え、大阪における構造物の基礎地盤として重要です。中位段丘に相当する礫層の岩相は低位のものと類似しますが、やや、粒径が小さくなっています。

調査区域の地下には、大阪層群と呼ばれる、鮮新・更新統の礫・砂・粘土層からなる未固結堆積物が分布しています。

また、調査区域には、図 4-1-10 に示すとおり活断層として上町断層帯が分布しています。

表 4-1-17 地質系統

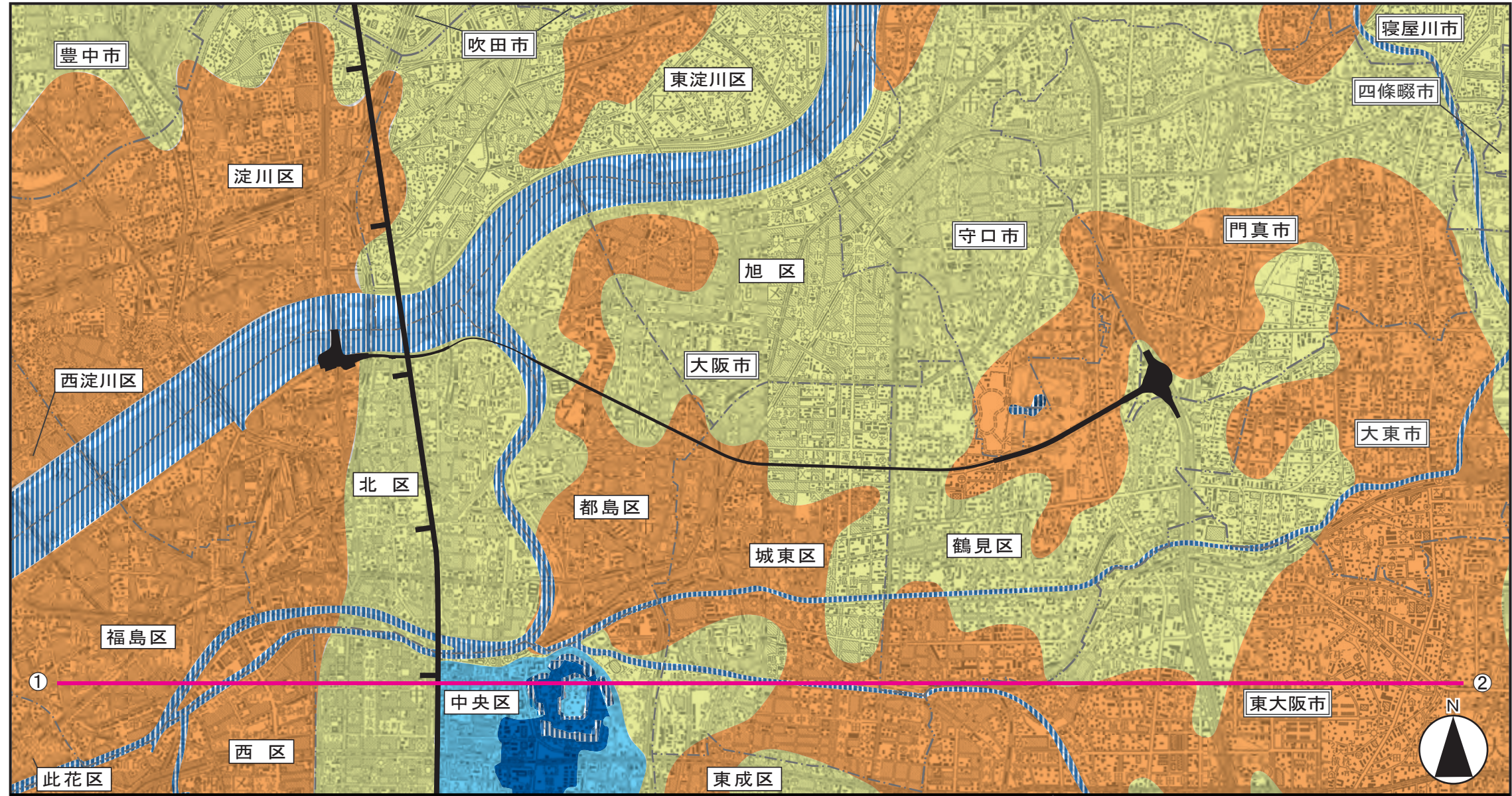
地質年代		主な地層名	主な岩質	厚層
新生代 第四紀	完新世	沖積層	砂と泥	20m 以上
	更新世 (最新世)	低位段丘	礫	5m 内外
		中位段丘		
		大阪層群	泥及び砂 砂礫及び泥	200～300m

出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）

3) 学術上又は希少性の観点から重要な地形及び地質の分布及び概況

調査区域には、学術上又は希少性の観点から重要な地形及び地質は分布していません。

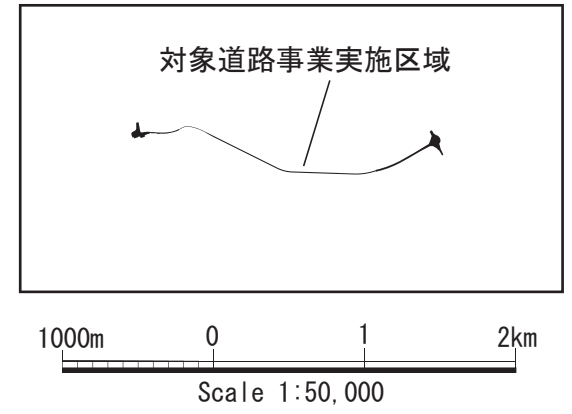
なお、「淀川のわんど」については、「日本の地形レッドデータブック第1集 新装版 一危機にある地形一」（平成12年12月、小泉武栄・青木賢人編）においてランクCに指定されていますが、調査区域にその分布域はありません。



凡 例		
記号	名 称	
	砂	沖積層
	泥	
	礫(低位)	段丘層
	礫(中位)	
	水面	その他

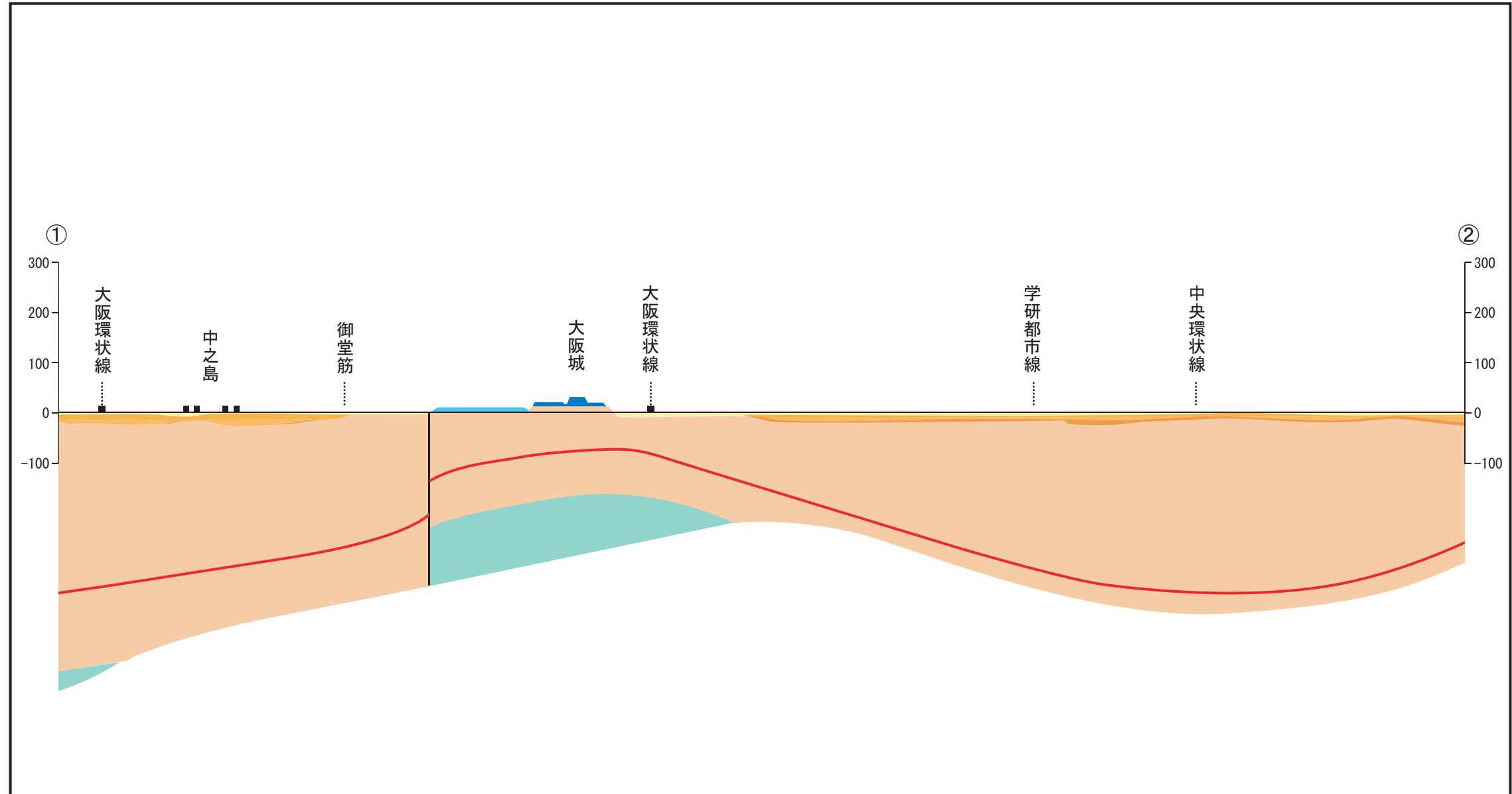
凡 例	
記号	名 称
	上町断層帯
①—②	断面線

注) 断面線は図4-1-11に対応しています。



出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）
上町断層帯の長期評価について（平成16年3月、地震調査研究推進本部 地震調査委員会）

図名 図4-1-10 地質の状況図(表層地質図)



凡		例	
記号	名称	記号	名称
	砂		泥及び砂
	泥		
	礫(低位)		砂礫及び泥
	礫(中位)		
			アズキ火山灰層
			断層

注) 本図は図4-1-10に示した①—②の断面を示したものです。
 出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）

図名	図4-1-11 地質の状況図(地質断面図)
----	-----------------------

1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1) 収集文献資料

調査区域における動植物の生息・生育状況と植生及び生態系の状況については、表 4-1-18(1)～(2)に示す文献資料を基に整理しました。

表 4-1-18(1) 文献資料一覧

番号	文献資料名
1	第1回自然環境保全調査 1/20万すぐれた自然図(昭和51年、環境庁)
2	第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 大阪府(昭和56年、環境庁)
3	第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府(平成元年、環境庁)
4	第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 哺乳類・両生類・爬虫類・淡水魚類・昆虫類・陸産及び淡水産貝類(平成5年)(環境省生物多様性センターホームページ)
5	第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府(平成7年、環境庁)
6	第5回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 哺乳類・両生類・爬虫類・淡水魚類・昆虫類・陸産及び淡水産貝類(平成13～14年)(環境省生物多様性センターホームページ)
7	第6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 哺乳類(平成16年)(環境省生物多様性センターホームページ)
8	第6回自然環境保全基礎調査 鳥類繁殖分布調査(平成16年)(環境省生物多様性センターホームページ)
9	第6回第7回自然環境保全基礎調査 植生調査(平成11年以降)(環境省生物多様性センターホームページ)
10	第7回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査(アライグマ生息情報収集)(平成18年)(環境省生物多様性センターホームページ)
11	ガンカモ科鳥類の生息調査 大阪府 2000～2013年度調査結果(環境省生物多様性センターホームページ)
12	日本の重要な両生類・爬虫類(近畿版)(昭和57年、環境庁)
13	日本の重要な淡水魚類(近畿版)(昭和57年、環境庁)
14	日本の重要な昆虫類(近畿版)(昭和55、環境庁)
15	改訂・近畿地方の保護上重要な植物-レッドデータブック近畿2001-(平成13年、レッドデータブック近畿研究会)
16	大阪市立自然史博物館 第18回特別展 1991 淀川の自然(平成3年、大阪市立自然史博物館)
17	大阪けもの調査隊ほにゅ(平成12年以降)(大阪市立自然史博物館ホームページ)
18	大阪府昆虫類等生息現況調査報告書(平成5年、大阪府)
19	大阪府の蝶(平成17年、大阪昆虫同好会)
20	大阪府指定文化財一覧表(大阪府ホームページ)
21	国指定文化財等データベース(文化庁ホームページ)
22	東大阪市政だより(平成21年12月1日)(東大阪市ホームページ)
23	昆虫類の多様性保護のための重要地域 第3集(平成14年12月、日本昆虫学会自然保護委員会)
24	大阪府レッドリスト2014(平成26年3月、大阪府)
25	植物群落レッドデータ・ブック(平成8年、(財)日本自然保護協会)

表 4-1-18(2) 文献資料一覧

番号	文献資料名
26	平成 5 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 植物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
27	平成 6 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
28	平成 6 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 魚介類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
29	平成 6 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 底生動物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
30	平成 7 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 昆虫類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
31	平成 8 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
32	平成 9 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 鳥類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
33	平成 10 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 植物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
34	平成 11 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 魚介類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
35	平成 11 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 底生動物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
36	平成 12 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 昆虫類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
37	平成 13 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
38	平成 14 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 植物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
39	平成 15 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 鳥類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
40	平成 16 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 魚介類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
41	平成 16 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 底生動物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
42	平成 17 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 昆虫類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
43	平成 18 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 鳥類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
44	平成 19 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 魚介類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
45	平成 20 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 底生動物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
46	平成 21 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 植物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
47	平成 22 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 基盤図調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
48	平成 13~21 年度 河川水辺の国勢調査報告書 (国土交通省)

2) 動植物の生息又は生育の状況

文献その他資料により把握された調査区域における動植物相の状況は、表 4-1-19(1)～(2)に示すとおりです。

調査区域は市街化の進んだ地域であり、市街地や工場地帯、道路等の人工的な環境が大部分を占めます。一方で、淀川の城北ワンドに代表される動植物の良好な生息場所が存在するほか、大阪城公園や鶴見緑地といった比較的まとまりのある緑地も存在します。

動植物相は全体的に市街地のような人工的な環境が大部分を占めることを反映し、動物ではスズメ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが生息し、植物ではクスノキ、ナンキンハゼなどの植栽樹や、アメリカセンダングサ、セイヨウタンポポなどの外来植物が生育しています。一方、淀川では、ヨシ、セイタカヨシ、オギなどの河川に特徴的な種が生育しており、鳥類のカルガモやバン、昆虫類のクロイトトンボ、ヒヌマイトトンボ、クビキリギス、エサキアメンボ等の生息場所になっているほか、ワンドはギンブナ、モツゴ、スジエビ、ミナミヌマエビ等の魚介類の生息場所になっています。

表 4-1-19(1) 文献その他の資料により把握された動植物相の状況（動物相）

調査項目	確認種数	主な確認種	
哺乳類	4目7科10種	コウベモグラ、アブラコウモリ、タイワンリス、ハタネズミ、アカネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ、ヌートリア、アライグマ、タヌキ	
鳥類	15目36科114種	ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、バン、ユリカモメ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス等	
爬虫類	2目5科5種	クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、シマヘビ	
両生類	1目2科3種	ニホンアマガエル、ナゴヤダルマガエル、ウシガエル	
魚類	7目16科47種	コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、オイカワ、モツゴ、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）等	
昆虫類	13目146科593種	アオモンイトトンボ、ヒスマイトトンボ、クロイトトンボ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、オオカマキリ、ウスイロササキリ、ホシササキリ、クビキリギス、ニシキリギリス、エンマコオロギ、マダラスズ、シバズ、トノサマバッタ、コバネイナゴ、クマゼミ、アブラゼミ、ウズラカメムシ、イチモンジカメムシ、アメンボ、エサキアメンボ、チャバネセセリ、ベニシジミ、ヤマトシジミ本土亜種、コムラサキ、ツマグロヒョウモン、ゴマダラチョウ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンキチョウ、モンシロチョウ、キアシヌレチゴミムシ、ナナホシテントウ、マクガタテントウ、ナミテントウ、コスナゴミムシダマシ、ヤナギルリハムシ、ハスジカツオゾウムシ、クロヤマアリ、セグロアシナガバチ等	
クモ類	1目19科74種	ジグモ、キョヒメグモ、ノコギリヒザグモ、ヒメアシナガグモ、ヨツボシショウジョウグモ、ハラクロコモリグモ、シボグモ、コフクログモ、ハナグモ等	
陸産貝類	1目3科6種	マルオカチョウジガイ、オカチョウジガイ、トクサカチョウジガイ、ホソオカチョウジガイ、コハクガイ、ナメクジ	
底生動物	渦虫綱	1目1科2種	ナミウズムシ、アメリカナミウズムシ
	腹足綱	4目10科21種	スクミリンゴガイ、オオタニシ、ヒメタニシ、クロダカワニナ、チリメンカワニナ、カワザンショウガイ、サカマキガイ等
	二枚貝綱	4目4科13種	マルドブガイ、トンガリササノハガイ、オグラヌマガイ、マツカサガイ、ヤマトシジミ、マシジミ等
	ゴカイ綱	2目2科2種	アシナガゴカイ、カニヤドリカンザシゴカイ
	ミミズ綱	1目1科5種	エラオイミズミミズ、エラミミズ、ビワヨゴレイトミミズ、フトゲユリミミズ、ユリミミズ
	ヒル綱	2目2科5種	ハバヒロビル、ヒラタビル、ミドリビル、アタマビル、ナミイシビル
	顎脚綱	1目1科4種	タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボ、ドロフジツボ
	軟甲綱	4目17科22種	キスイタナイス、フロリダマミズヨコエビ、ニッポンヨコエビ、ヒゲツノメリタヨコエビ、フサゲモクズ、ヒメハマトビムシ、ミズムシ、エビノコバン、イソコツブムシ、ヨツバコツブムシ、フナムシ、ミナミヌマエビ、ヌマエビ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、ユビナガホンヤドカリ、ヤマトオサガニ、クロベンケイガニ、アシハラガニ、モクズガニ、ケフサイソガニ
	昆虫綱	6目27科58種	アオモンイトトンボ、ギンヤンマ、コオニヤンマ、マツモムシ、コガムシ等
被喉綱	1目3科4種	カンテンコケムシ、ヒメテンコケムシ、オオマリコケムシ、ヤハズハネコケムシ	

注1) 確認種数及び主な確認種は、調査区域における状況です。

注2) 文献その他の資料において正確な種名が特定できる記録のみ種数で計上しています。

表 4-1-19(2) 文献その他の資料により把握された動植物相の状況（植物相）

調査項目		確認種数	主な確認種	
植物 (維管束植物)	シダ植物	9科17種	スギナ、イワヒメワラビ、ワラビ、ベニシダ、ミゾシダ、ヒメシダ、ヒメワラビ、ミドリヒメワラビ、シケシダ等	
	裸子植物	2科2種	イチョウ、コノテガシワ	
	被子植物	双子葉植物 離弁花類	45科195種	オニグルミ、アカメヤナギ、ジャヤナギ、コゴメヤナギ、ムクノキ、エノキ、アキニレ、カナムグラ、ヤナギタデ、ミゾソバ、スイバ、ギンギシ、オランダミミナグサ、ウシハコベ、クスノキ、マツモ、ノイバラ、メドハギ、カタバミ、ナンキンハゼ、アレチウリ、ヒシ、コマツヨイグサ等
		合弁花類	19科117種	ヘクソカズラ、アメリカネナシカズラ、オオバコ、ヘラオオバコ、ブタクサ、アメリカセンダングサ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、チチコグサ、アキノノゲシ、セイヨウタンポポ、オオオナモミ等
単子葉植物	17科129種	オオカナダモ、エビモ、ホテイアオイ、ツユクサ、メリケンカルカヤ、イヌムギ、ギョウギシバ、メヒシバ、アキメヒシバ、イヌビエ、チガヤ、オギ、ススキ、オオクサキビ、シマスズメノヒエ、チカラシバ、ヨシ、セイタカヨシ、マダケ、エノコログサ、マコモ、ボタンウキクサ、アオウキクサ、ウキクサ、ガマ、ミコシガヤ、カヤツリグサ等		
藻類	紅藻綱	2目2科2種	オバクサ、ホソアヤギヌ	
	緑藻綱	2目3科5種	ヒビミドロ、マキヒトエ、ヒラアオノリ、ウスバアオノリ、スジアオノリ	

注1) 確認種数及び主な確認種は、調査区域における状況です。

注2) 文献その他の資料において正確な種名が特定できる記録のみ種数で計上しています。

3) 動物の重要な種及び注目すべき生息地の状況

重要な種及び注目すべき生息地の選定基準は、表 4-1-20(1)～(2)に示すとおりです。

文献その他の資料調査により把握された調査区域に生息する動物の情報を踏まえ、調査区域における動物の生息環境の保全を目的とした法令等に基づき抽出される学術上又は希少性の観点から重要な種（以下、「重要な種」といいます。）、並びに学術上又は希少性の観点から重要である生息地若しくは地域の象徴であること、その他の理由で注目すべき生息地（以下、「注目すべき生息地」といいます。）の把握を行いました。

表 4-1-20(1) 重要な種の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年 2 月 18 日大阪市条例第 5 号) 「東大阪市文化財保護条例」(昭和 47 年 11 月 15 日東大阪市条例第 30 号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「レッドデータブック 2014 1 哺乳類」 「レッドデータブック 2014 2 鳥類」 「レッドデータブック 2014 3 爬虫類・両生類」 「レッドデータブック 2014 6 貝類」 「レッドデータブック 2014 7 その他無脊椎動物」 (平成 26 年 9 月、環境省) 「レッドデータブック 2014 4 汽水・淡水魚類」 「レッドデータブック 2014 5 昆虫類」 (平成 27 年 2 月、環境省)	CR+EN：絶滅危惧 I 類 (絶滅の危機に瀕している種) CR：絶滅危惧 IA 類 (ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種) EN：絶滅危惧 IB 類 (IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種) VU：絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧 (現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD：情報不足 (評価するだけの情報が不足している種) LP：絶滅のおそれのある地域個体群 (地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
④	「大阪府レッドリスト 2014」 (平成 26 年 3 月、大阪府)	絶滅：絶滅 (本府ではすでに絶滅したと考えられる種) I 類：絶滅危惧 I 類 (絶滅の危機に瀕している種) II 類：絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種) 準絶：準絶滅危惧 (存続基盤が脆弱な種) 不足：情報不足 (評価するだけの情報が不足している種)
⑤	「近畿地区・鳥類レッドデータブックー絶滅危惧種判定システムの開発」 (平成 14 年、京都大学学術出版会)	繁殖個体群、越冬個体群、通過個体群、夏季滞在個体群 ランク 1：危機的絶滅危惧種 ランク 2：絶滅危惧種 ランク 3：準絶滅危惧種 ランク 4：要注目種 (特に危険なしの種を除く)

表 4-1-20(2) 注目すべき生息地の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年 2 月 18 日大阪市条例第 5 号) 「東大阪市文化財保護条例」(昭和 47 年 11 月 15 日東大阪市条例第 30 号)	国指定特別天然記念物 国指定天然記念物 府指定天然記念物 市指定天然記念物
②	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(昭和 55 年 9 月 22 日条約第 28 号)	指定湿地
③	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	生息地等保護区(動物に係るもの)
④	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成 4 年 9 月 28 日条約第 7 号)	自然遺産の登録基準に該当するもの
⑤	「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(平成 7 年、環境庁)に示された鳥類の集団繁殖地・集団ねぐら	地域の象徴であること等の理由により注目される生息地
⑥	「昆虫類の多様性保護のための重要地域第 3 集」(平成 14 年 12 月、日本昆虫学会自然保護委員会)	昆虫類の生物多様性保護の観点から選定された重要地域

(1) 動物の重要な種の状況

選定基準に基づいて抽出された動物の重要な種は、表 4-1-21～表 4-1-28 に示すとおりです。

文献その他の資料によると、哺乳類で 2 種、鳥類で 54 種、両生類で 1 種、魚類で 25 種、昆虫類で 32 種、クモ類で 1 種、底生動物で 46 種が抽出されました。

抽出された重要な種のうち、確認位置がわかるものを図 4-1-12 に示しました。

表 4-1-21 動物の重要な種の確認状況

調査項目	確認状況		
哺乳類	1 目	1 科	2 種
鳥類	11 目	22 科	54 種
爬虫類	—	—	—
両生類	1 目	1 科	1 種
魚類	5 目	8 科	25 種
昆虫類	6 目	15 科	32 種
クモ類	1 目	1 科	1 種
陸産貝類	—	—	—
底生動物	11 目	23 科	46 種

注) 調査区域全域における確認状況です。

表 4-1-22 重要な哺乳類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	ネズミ	ネズミ	ハタネズミ	27, 31, 37, 48				I 類
2			カヤネズミ	17, 37, 48				準絶
1 目 1 科 2 種					0	0	0	2

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号2, 4, 6, 7, 10, 17, 27, 31, 37, 48を使用しました。

表 4-1-23(1) 重要な鳥類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
1	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	43, 48					繁殖:ランク3
2	コウノトリ	サギ	ササコイ	8, 37, 39, 43, 48					繁殖:ランク3
3			アマサギ	37, 43				II類	
4			チュウサギ	43			NT		繁殖:ランク3
5	カモ	カモ	オシドリ	11, 43			DD		繁殖:ランク3
6			マカモ	11, 37, 43, 48					繁殖:ランク3
7			トモエカモ	11, 43			VU		越冬:ランク3
8			ヨシカモ	11, 43					越冬:ランク3
9			アメリカヒドリ	11, 43					越冬:ランク3
10			アカハシロ	11, 43				DD	越冬:ランク3
11			ホオジロカモ	11, 43					越冬:ランク3
12			ミコアイサ	11, 43					越冬:ランク3
13			カワアイサ	43					越冬:ランク3
14			タカ	タカ	ミサコ	43			NT
15	オオタカ	43				国内	NT	準絶	繁殖:ランク3
16	ハイタカ	43					NT		繁殖:ランク4
17	ノスリ	39, 43						準絶	越冬:ランク3
18	サシバ	8, 43					VU	I類	繁殖:ランク2
19	ハヤブサ	ハヤブサ		43		国内	VU		繁殖:ランク3
20		チョウゲンボウ		43					越冬:ランク3
21	ツル	クイナ		ヒクイナ	43			NT	II類
22			オオバン	43, 48					繁殖:ランク3
23	チドリ	チドリ	コチドリ	8, 43, 48				準絶	繁殖:ランク3
24			イカルチドリ	39, 43				II類	繁殖:ランク3
25			ケリ	8, 43, 48			DD	準絶	
26		シギ	クサシギ	43				準絶	越冬:ランク3
27			キアシシギ	43				準絶	通過:ランク3
28			イソシギ	37, 43				準絶	繁殖:ランク2
29			チュウシャクシギ	37				準絶	通過:ランク3
30		カモメ	ウミネコ	39					繁殖:ランク4
31			コアシサシ	5, 43, 48		国際	VU	I類	繁殖:ランク2
32		カッコウ	カッコウ	カッコウ	8, 43				
33	ツツドリ			43				準絶	繁殖:ランク3
34	ホトギス			8, 43					繁殖:ランク3
35	フクロウ	フクロウ	コミズク	39				II類	越冬:ランク2
36			フクロウ	8, 43				準絶	繁殖:ランク3
37	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	43				準絶	繁殖:ランク3
38			カワセミ	8, 37, 43, 48					繁殖:ランク3
39	キツキ	キツキ	アオケラ	8, 43					繁殖:ランク3

表 4-1-23(2) 重要な鳥類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
40	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	8, 37, 39, 3, 48				準絶	
41		ツバメ	コシアカツバメ	8, 43				準絶	
42		セキレイ	ヒンスイ	43					繁殖:ランク 4
43		レンジャク	ヒレンジャク	43					越冬:ランク 4
44		ツグミ	ヒタキ	39					繁殖:ランク 3
45		ウグイス	オオヨシキリ	8, 37, 39, 43, 48				準絶	繁殖:ランク 3
46			センダイムシクイ	8, 43				準絶	繁殖:ランク 3
47			セッカ	8, 37, 39, 43, 48				準絶	
48		ヒタキ	キヒタキ	8, 43					繁殖:ランク 3
49			オオルリ	8, 43					繁殖:ランク 3
50		カササギヒタキ	サコウチョウ	8, 43					繁殖:ランク 3
51		ホオジロ	カンラダカ	37, 43				準絶	
52			ミヤマホオジロ	43				準絶	越冬:ランク 3
53			アオジ	37, 39, 43					繁殖:ランク 3
54			オオジュリン	37, 39, 43, 48				準絶	
合計 11 目 22 科 54 種					0	3	12	25	47

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号5, 8, 11, 32, 37, 39, 43, 48を使用しました。

表 4-1-24 重要な両生類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	無尾	アカガエル	ナコヤダルマガエル	2, 12			EN	I 類
1 目 1 科 1 種					0	0	1	1

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号2, 4, 6, 12, 27, 31, 37, 48を使用しました。

表 4-1-25 重要な魚類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	
1	コイ	コイ	ゲンゴロウブナ	4, 6, 16, 44, 48			EN		
2			ヤリタナゴ	2, 4, 6, 13, 16			NT	I 類	
3			イモシタナゴ	4, 6, 16			CR	I 類	
4			イセナハラ	2, 13, 16	天然	国内	CR	I 類	
5			シロヒレヒラ	4, 6, 16, 44, 48			EN	I 類	
6			ワカ	4, 6, 16, 44, 48			CR	I 類	
7			カハタモロコ	16			EN	I 類	
8			ハス	4, 6, 16, 44, 48			VU	準絶	
9			カワヒガイ	4, 6, 16, 44, 48			NT	I 類	
10			ムギツク	4, 6				II 類	
11			タモロコ	4, 6, 16, 28, 44, 48				準絶	
12			ホノモロコ	4, 6, 16			CR		
13			ゼゼラ	4, 6, 16, 28, 34, 44, 48			VU	II 類	
14			ツチアキ	4, 6, 16			EN	I 類	
15			テメモロコ	16			VU	不足	
16			スコモロコ	4, 6, 16			VU		
17			トシヨウ	アユトキ	2, 4, 6, 13	天然	国内	CR	I 類
18					シマトシヨウ	4, 6, 16			
19	ナマス	ギギ	ギギ	4, 6, 16, 28, 34, 44, 48			準絶		
20		ナマス	ナマス	6, 44, 48			準絶		
21	サケ	アユ	アユ	4, 6, 16			準絶		
22		サケ	サツキマス	4, 6			NT	不足	
23	ダツ	メダカ	ミナメダカ	4, 6, 16			VU	II 類	
24	スズキ	ハゼ	ウキコリ	6, 16			準絶		
25			旧トウヨシホリ	6, 28, 34, 44, 48				不足	
合計 5 目 8 科 25 種					2	2	17	22	

注) 旧トウヨシホリのランクはトウヨシホリのものを示します。

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号2, 4, 6, 13, 16, 28, 34, 40, 44, 48を使用しました。

表 4-1-26 重要な昆虫類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	トンボ	イトトンボ	キイトンボ	4, 6, 42, 48				準絶
2			ヘニイトンボ	6, 42, 48			NT	準絶
3			ヒヌマイトンボ	1, 18, 23			EN	I 類
4			セスジイトンボ	6, 36, 42, 48				準絶
5		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	6			NT	II 類
6			アオヤンマ	4, 6			NT	II 類
7			マルタンヤンマ	4, 6, 42, 48				準絶
8		サナエトンボ	ミヤマサナエ	6				II 類
9			ホソサナエ	23				II 類
10			ウチワヤンマ	6				準絶
11			オオサカサナエ	6, 23			VU	II 類
12			メカネサナエ	6, 23			VU	II 類
13			トンボ	コフキトンボ	4, 6, 42, 48			
14		ヨツボシトンボ		6				準絶
15		ナツアカネ		6, 42, 48				準絶
16		アキアカネ		6, 36				準絶
17		ノシメトンボ		6, 30, 36, 42, 48				準絶
18		マイコアカネ		6, 30, 36				準絶
19	ハサミシ	マルムネハサミシ		コヒゲシロハサミシ	42, 48			I 類
20	カメシ	サシガメ	オオシナガサシガメ	36			NT	
21		アメンボ	エサキアメンボ	6, 23, 42, 48			NT	II 類
22			ヤスマツアメンボ	6				準絶
23	チョウ	トクガ	スゲトクガ	42, 48			NT	準絶
24		ヤガ	ヌマヘウスキヨトリ	36			VU	準絶
25	コウチュウ	オサムシ	ハマヘミスギワコシムシ	42, 48				準絶
26		ハンミョウ	ヨトシロヘリハンミョウ	6			VU	絶滅
27		コガネムシ	ヒゲコガネ	23				II 類
28		テントウムシ	ジュウクホシテントウ	23, 30, 36				準絶
29			ジュウサンホシテントウ	23, 42, 48				準絶
30			クロスジチャイロテントウ	23, 36				準絶
31		ツチハンミョウ	キュウシュウツチハンミョウ	23				準絶
32	ハチ	スズメハチ	モンズメハチ	36, 42, 48			DD	
合計 6 目 15 科 32 種					0	0	12	30

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号1, 2, 4, 6, 14, 16, 18, 19, 23, 30, 36, 42, 48を使用しました。

表 4-1-27 重要なクモ類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	クモ	ジグモ	リスナグモ	42, 48			NT	II 類
1 目 1 科 1 種					0	0	0	1

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号30, 36, 42, 48を使用しました。

表 4-1-28 重要な底生動物の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	
1	原始紐舌	タニシ	オオタニシ	4, 6, 16			NT	II類	
2	盤足	カリナ	ハベカリナ	28, 45, 48				準絶	
3			イホカリナ	4, 6, 45, 48			NT	II類	
4			ナカセコカリナ	4, 6			CR+EN	絶滅	
5			ヤマトカリナ	4, 6			NT	I類	
6			クロダカリナ	4, 6, 16, 45, 48			NT	II類	
7			カリサ ^ン ショウガイ	カリサ ^ン ショウガイ	4, 6, 16				準絶
8		エゾマメタニシ	マメタニシ	4, 6			VU	I類	
9	基眼	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	4, 6			DD		
10			モノアラガイ	4, 6, 45, 48			NT	I類	
11		ヒラマキガイ	ヒラマキミスマイマイ	4, 6			DD		
12			クルマヒラマキガイ	6			VU	不足	
13	柄眼	オカモノアラガイ	ナカオカモノアラガイ	4, 6			NT	準絶	
14	イシガイ	イシガイ	マルトブガイ	4, 6			VU	II類	
15			トブガイ	4, 6, 16, 45, 48				II類	
16			オハエホシガイ	16			VU	I類	
17			トンガリサノハガイ	4, 6, 16			NT	II類	
18			オグラヌマガイ	4, 6, 16			CR+EN	I類	
19			マツカサガイ	4, 6, 16			NT	II類	
20			イシガイ	6, 16, 45, 48				準絶	
21	マルスタレガイ	シジミ	ヤマトシジミ	4, 6, 16			NT	準絶	
22			マシジミ	4, 6, 16			VU	II類	
23			セタシジミ	4, 6			VU	I類	
24	吻蛭	グロシフォニ	ミドリヒル	45, 48			DD		
25	ワラジムシ	コツブムシ	ヨツバコツブムシ	16				準絶	
26	トンボ	イトトンボ	キイトンボ	16				準絶	
27			セスジイトトンボ	16				準絶	
28		ヤンマ	アオヤンマ	16			NT	II類	
29		サナエ	ホンサナエ	41, 45, 48				II類	
30			ウチワヤンマ	16				準絶	
31			オオサカサナエ	16			VU	II類	
32			メカネサナエ	16			VU	II類	
33		エゾトンボ	トラフトンボ	41, 45, 48				準絶	
34		トンボ		コフキトンボ	16, 35, 45, 48				準絶
35				ナツアカネ	16				準絶
36				アキアカネ	16				準絶
37				ノシメトンボ	16				準絶
38				マイコアカネ	16				準絶
39	カメムシ			アメンボ	エサキアメンボ	16			NT
40		ミスカメムシ	ムモンミスカメムシ		16			準絶	
41		コオイムシ	タガメ		16			VU	II類
42		タイコウチ	ミスカマキリ		16				準絶
43			ヒメミスカマキリ		16				準絶
44	コウチュウ	ゲンゴロウ	ルイスツブゲンゴロウ	16			VU	II類	
45			ミススマシ	オオミススマシ	16			NT	II類
46			カムシ	コカムシ	16			DD	準絶
合計 11 目 23 科 46 種					0	0	27	40	

選定基準：選定基準（選定基準番号）及び空白は表4-1-20(1)に示します。
 出典：文献資料は表4-1-18の番号4, 6, 16, 28, 29, 35, 41, 45, 48を使用しました。

(2) 注目すべき生息地の状況

調査区域において、法令、条例及び条約により指定された注目すべき生息地はありません。

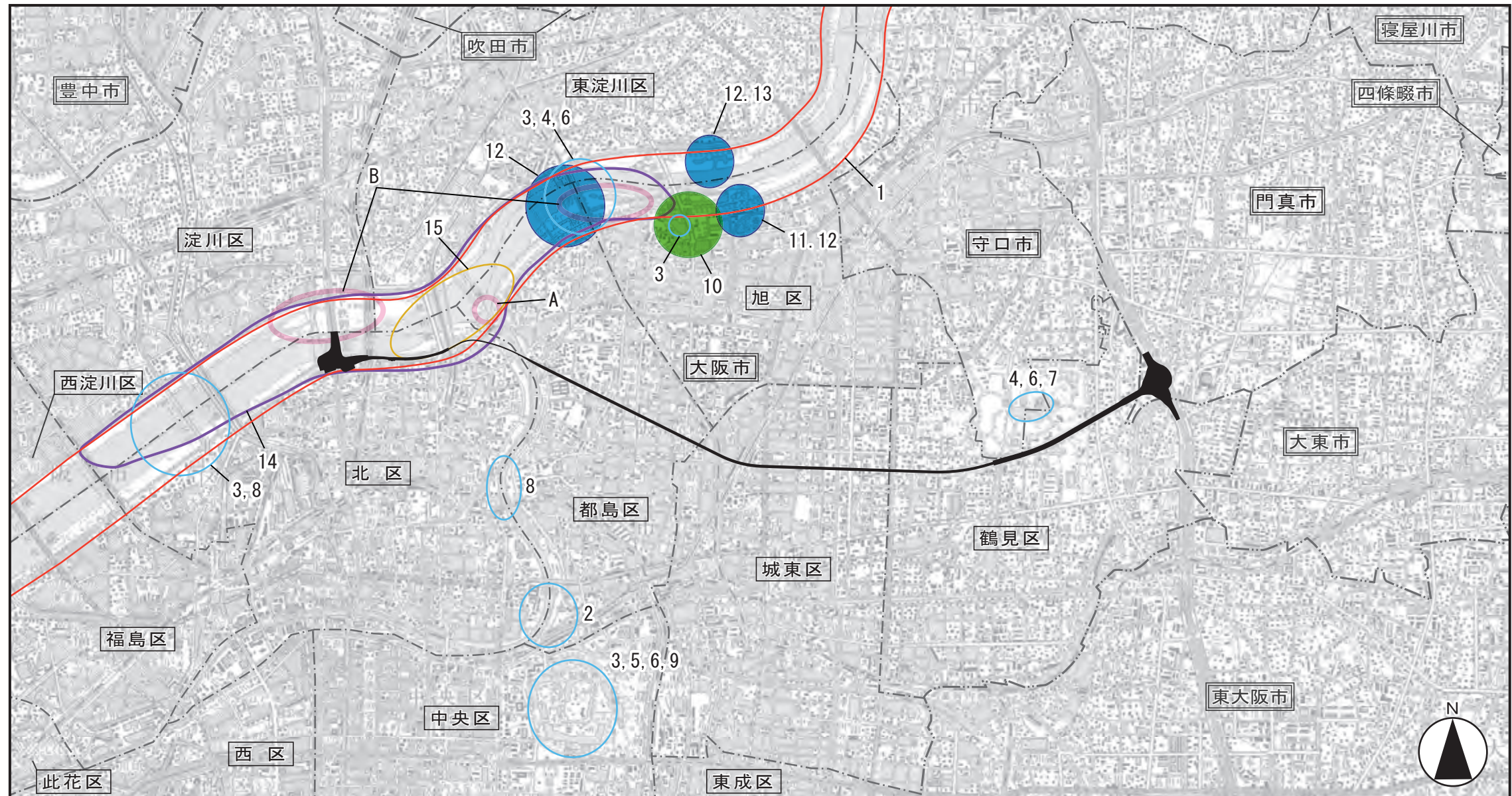
なお、表 4-1-29 に示すとおり、「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府」(平成 7 年、環境庁)において、「コアジサシの集団繁殖地」が記録されています。また、「昆虫類の多様性保護のための重要地域第 3 集」(平成 14 年 12 月、日本昆虫学会自然保護委員会)において「淀川」が記載されており、淀川区の西中島・旭区城北公園北のワンド群(左岸)を重要地域としています。

注目すべき生息地の分布を図 4-1-12 に示します。

表 4-1-29 注目すべき生息地の状況

番号	注目すべき生息地	所在	概要
A	コアジサシの集団繁殖地	大阪市東淀川区	調査年月日：平成 4 年 6 月 18 日 環境種類：中州 面積：500m ² 地形：平地 個体数：10～19 羽
B	淀川(西中島・城北公園北のワンド群)	大阪市淀川区、 大阪市旭区	淀川区西中島のヨシ原にはヒヌマイトトンボが広範囲にわたり生息している。城北公園の北側のワンド群や本流に近接したところは、トンボ類や水生昆虫が豊富である。

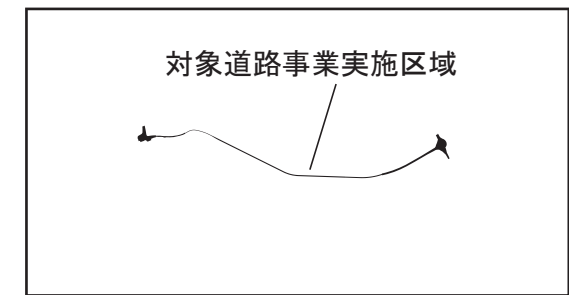
出典：文献資料は表4-1-18の番号5, 23を使用しました。



凡 例											
区分	記号	番号	名称・種名	区分	記号	番号	名称・種名	区分	記号	番号	名称・種名
哺乳類	○	1	カヤネズミ	鳥類	○	7	アカハジロ	魚類	●	13	アユモドキ
鳥類	○	2	オシドリ		○	8	ホオジロガモ	昆虫類	○	14	ヒヌマイトトンボ
		3	マガモ		○	9	ミコアイサ	底生動物	○	15	マシジミ
		4	トモエガモ		両生類	●	10	ナゴヤダルマガエル	注目すべき生息域	○	A
		5	ヨシガモ	魚類	●	11	ヤリタナゴ	B			淀川(西中島・城北公園北のワンド群)
		6	アメリカヒドリ		●	12	イタセンパラ				

注) 重要種のうち確認位置がわかるもののみを記載。

- 出典：1：第1回自然環境保全調査 1/20万すぐれた自然図(昭和51年、環境庁)
 2：第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 大阪府(昭和56年、環境庁)
 5：第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府(平成7年、環境庁)
 11：ガンカモ科鳥類の生息調査 大阪府 2000～2013年度調査結果(環境省生物多様性センターホームページ)
 17：大阪けもの調査隊ほにゅ(平成12年以降)(大阪市立自然史博物館ホームページ)
 23：昆虫類の多様性保護のための重要地域 第3集(平成14年12月、日本昆虫学会自然保護委員会)
 48：平成13～21年度 河川水辺の国勢調査報告書(国土交通省)



図名

図4-1-12 重要な動物及び注目すべき生息地の分布

4) 植物の重要な種及び植物群落の状況

重要な種・群落の選定基準は、表 4-1-30(1)～(2)に示すとおりです。

文献その他の資料調査により把握された当該地域に生育する植物の情報を踏まえ、当該地域における植物の環境の保全を目的とした法令等に基づき抽出される学術上又は希少性の観点から重要な種及び群落（以下、「重要な種・群落」といいます。）の把握を行いました。

表 4-1-30(1) 重要な種の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号） 「大阪府文化財保護条例」（昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例第 5 号） 「大阪府文化財保護条例」（平成 11 年 2 月 18 日大阪府条例第 5 号） 「東大阪市文化財保護条例」（昭和 47 年 11 月 15 日東大阪市条例第 30 号）	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「レッドデータブック 2014 8 植物 I」（平成 27 年 3 月、環境省） 「レッドデータブック 2014 9 植物 II」（平成 27 年 2 月、環境省）	CR+EN：絶滅危惧 I 類（絶滅の危機に瀕している種） CR：絶滅危惧 I A 類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） EN：絶滅危惧 I B 類（I A 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種） VU：絶滅危惧 II 類（絶滅の危険が増大している種） NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）
④	「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年 3 月、大阪府）	絶滅：絶滅（本府ではすでに絶滅したと考えられる種） I 類：絶滅危惧 I 類（絶滅の危機に瀕している種） II 類：絶滅危惧 II 類（絶滅の危険が増大している種） 準絶：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種） 不足：情報不足（評価するだけの情報が不足している種）
⑤	「改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿 2001—」（平成 13 年、レッドデータブック近畿研究会）	絶滅：絶滅種（近畿地方では絶滅したと考えられる種） 近 A：絶滅危惧種 A（近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） 近 B：絶滅危惧種 B（近い将来における絶滅の危険性が高い種） 近 C：絶滅危惧種 C（絶滅の危険性が高くなりつつある種） 近準：準絶滅危惧種（生育条件の変化によっては「絶滅危惧種」に移行する要素をもつ種）

表 4-1-30(2) 重要な植物群落の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年 2 月 18 日大阪市条例第 5 号) 「東大阪市文化財保護条例」(昭和 47 年 11 月 15 日東大阪市条例第 30 号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成 8 年、(財)日本自然保護協会)	保護上重要な群落として選定された植物群落 ランク 4：緊急に対策必要 ランク 3：対策必要 ランク 2：破壊の危惧 ランク 1：要注意
③	「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府」(平成元年、環境庁)	特定植物群落のうち以下の区分に該当するもの A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沢地、池沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落または個体群
④	「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府」(平成 7 年、環境庁)	巨樹・巨木林

(1) 植物の重要な種の状況

植物の重要な種の確認状況は、表 4-1-31 及び表 4-1-32 に示すとおりです。

文献その他の資料によると、維管束植物で 18 種、藻類で 1 種の重要な種が抽出されました。

表 4-1-31 重要な植物種（維管束植物）の記録状況

No.	分類	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
1	離弁花類	タテ	ホハ ^レ イヌタテ	46, 48			NT	Ⅱ類	A
2			ナカ ^ハ ノウキヅカミ	46, 48			NT	Ⅱ類	C
3			サテ ^ク サ	26, 33, 38, 46, 47, 48				準絶	C
4			ヌカホ ^レ タテ	46			VU	Ⅱ類	C
5		メギ	メギ	33				準絶	
6		トク ^タ ミ	ハンケ ^レ ショウ	46, 48				準絶	
7		ユキノシタ	タノアシ	46, 48			NT	準絶	C
8		セリ	トク ^セ リ	15, 33				Ⅱ類	C
9	合弁花類	ガガ ^イ モ	コハ ^ノ カモメヅル	15, 26, 33, 38, 46, 47, 48				Ⅱ類	C
10			シロハ ^ノ カモメヅル	26					C
11		ゴマノハグサ	カチ ^レ シヤ	46, 48			NT	準絶	準
12		キク	ウラギ ^ク	46, 48			NT	準絶	準
13	単子葉植物	カヤツリグサ	ワント ^レ スゲ	16			VU	Ⅰ類	A
14			ヤカ ^レ ミスゲ	16, 38, 46, 48				準絶	C
15			ミコシガ ^ヤ	16, 26, 33, 38, 46, 48				準絶	C
16			シオク ^グ	33, 38, 46, 48				準絶	C
17			フトイ	26, 33, 46, 48				Ⅱ類	
18			マツカサススキ	26, 33				Ⅱ類	C
合計 9 科 18 種					0	0	7	17	15

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-30(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号15, 16, 26, 33, 38, 46, 47, 48を使用しました。

表 4-1-32 重要な植物種（藻類）の記録状況

No.	分類	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	藻類	コノハリ	ホリアヤギ ^ヌ	16			NT	準絶
合計 1 科 1 種					0	0	1	1

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-30(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号16, 26, 33, 38, 46, 47, 48を使用しました。

(2) 重要な植物群落等の状況

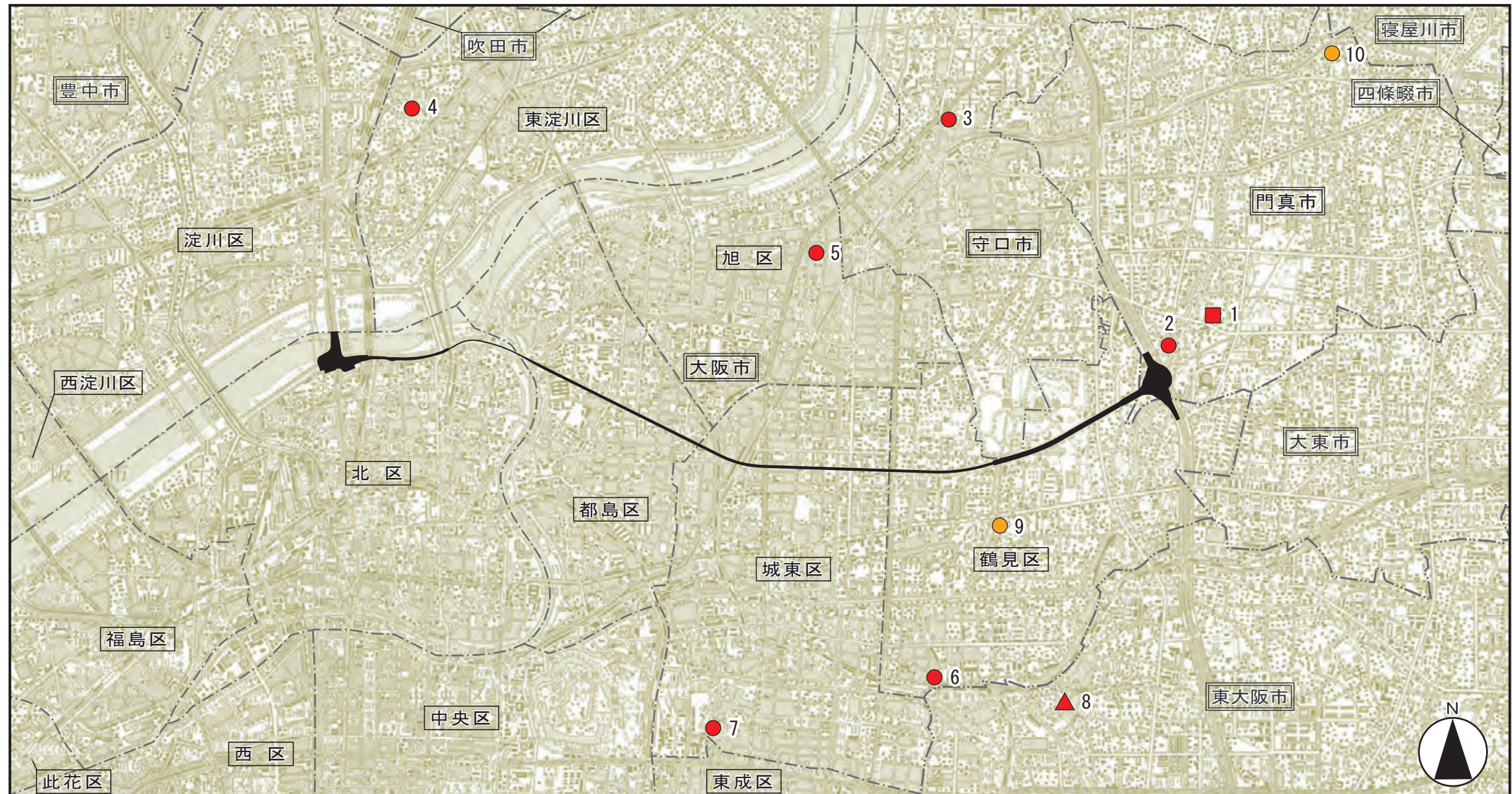
調査区域の重要な植物群落、国、大阪府又は関係市区の天然記念物に指定されている樹木等に該当するものは、表 4-1-33 に示すとおりです。重要な植物群落等のうち、分布場所がわかっている天然記念物及び巨樹を図 4-1-13 に示します。

表 4-1-33 重要な植物群落等の記録状況

番号	群落名	所在	文献資料	選定基準			
				①	②	③	④
1	薫蓋クス	門真市	5, 20, 21	国天			○
2	葎島のくす	門真市	5, 20	府天			○
3	難宗寺のいちよう	守口市	20	府天			
4	須賀神社跡のくす	大阪市東淀川区	20	府天			
5	寶龍寺のくす	大阪市旭区	20	府天			
6	阿遲速雄神社のくす	大阪市鶴見区	20	府天			
7	白山神社のいちよう	大阪市城東区	20	府天			
8	稲田八幡宮のいちよう	東大阪市	20, 22	市天			
9	クスノキ(茨田横堤町)	大阪市鶴見区	5				○
10	クスノキ(上島)	門真市	5				○
11	オギ群落(オギ群集)	大阪市東淀川区	25		ランク 2		
12	セイタカヨシ群落	大阪市淀川区	25		ランク 3		
13	セイタカヨシ群落	大阪市東淀川区	25		ランク 2		
14	ウキヤガラ-マコモ群集	大阪市淀川区	25		ランク 3		
15	マコモ群落(ウキヤガラ-マコモ群集)	大阪市東淀川区	25		ランク 2		
16	ヨシ群落(カモノハシ・ヨシ群落)	大阪市淀川区	25		ランク 3		
17	ヨシ群落(カサスゲ群集及びヨシ群落)	大阪市東淀川区	25		ランク 2		
18	シオクグ群集	大阪市淀川区	25		ランク 3		
19	チガヤ・ヤマアワ群落	大阪市淀川区	25		ランク 3		
20	豊里のヨシ・オギ群落	大阪市東淀川区	25		ランク 2		
21	西中島の低湿地植物群落	大阪市淀川区	25		ランク 3		

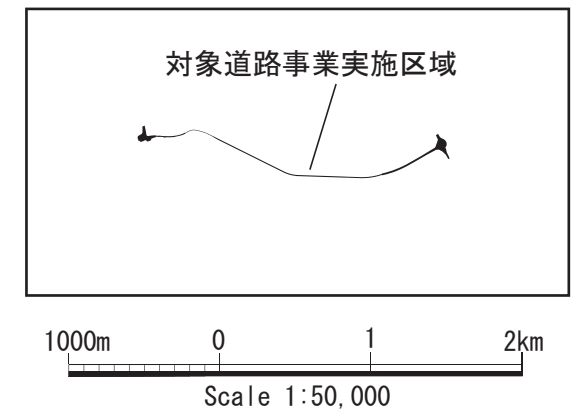
選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-30(2)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号3, 5, 15, 20, 21, 22, 25を使用しました。



凡 例			
記号	番号	名称	備考
■	1	薫蓋クス	国指定天然記念物
●	2	菟島のかす	府指定天然記念物
	3	難宗寺のいちよう	
	4	須賀神社跡のかす	
	5	寶龍寺のかす	
	6	阿遅速雄神社のかす	
▲	7	白山神社のいちよう	市指定天然記念物
	8	稲田八幡宮のいちよう	
●	9	クスノキ(茨田横堤町)	巨樹・巨木林
	10	クスノキ(上島)	

注) 分布位置がわかるもののみを記載。
 出典：第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府 (平成7年、環境庁)
 大阪府指定文化財一覧表 (大阪府ホームページ)
 国指定文化財等データベース (文化庁ホームページ)
 東大阪市政だより (平成21年12月1日) (東大阪府ホームページ)



図名

図4-1-13 重要な植物群落等の分布